～ 令和７年度　第３学期始業式「校長式辞」 ～

皆さん、おはようございます。そして、新年あけましておめでとうございます。新たな年のスタートです。今年もよろしくお願いします。今日から始まる第３学期もみんなで前向きな気持ちで頑張っていきましょう。さて、今年は午年（うまどし）ですね。干支を表す十二支（じゅうにし）については皆さんもよく知っていると思いますが、十二支のほかに十干（じっかん）というのがあるのを知っていますか。甲（きのえ）、乙（きのと）、丙（ひのえ）…など時を表す十の言葉です。十干と十二支を組み合わせると 60 通りになるのですが、今年は「丙午（ひのえうま）」の年だそうですね。「丙」は、情熱や決断力の象徴で太陽のような明るさを持つ様子を表すとのこと。また、「午」は、健康、豊作、繁栄の象徴で活力や情熱などエネルギーが溢れる様子を表していると言われています。したがって、**「丙午」である今年は、明るく活動的な鷲高生の皆さんを象徴する年ですので、皆さんにとって挑戦・実行・飛躍するのにふさわしい年になる**と私は確信しています。勉強、部活動、進路への取組など皆さんの思いと願いが成就する年にしてほしいと思います。

ところで、皆さんの中に、今年と同じく丙午の年だった 60 年前（1966 年・昭和 41 年）に日本でどんな現象が起こったか知っている人はいるでしょうか？ 実は、60 年前の丙午の年に日本の出生率が異常なほど急激に落ち込み、翌年には再び回復するという奇妙な現象が起こりました。これは「丙午生まれの女性は気性が激しく、夫の命を縮める」という迷信が社会に広まり、出産を避ける夫婦が多かったため…と言われています。しかし、これって何の科学的根拠もない単なる迷信であることは理解できますよね？

でも、今の私たちも、同じような根拠のない思い込みや偽情報に踊らされていたりしてはいないでしょうか？ 例えば、「根拠のない思い込み」として…

●有名大学や大企業の出身者は優秀である	●高齢者はコンピュータのリテラシーが高くない
●血液型が A 型の人は、みな几帳面で真面目だ	●お茶出しや電話対応などは、女性がやるものだ

などは、どれも科学的根拠のない「迷信」のようなもの、あるいは「偏ったものの見方・考え方」だと私は思っています。また、近年、人々が惑わされた偽情報として…

●2016 年、熊本地震が発生した際「動物園からライオンが逃げ出した」という偽情報・偽画像が SNS で拡散
●2022 年、台風 15 号により「静岡県に水害が発生」という AI で作成された偽画像が SNS に投稿され拡散

などの例があります。AI で作成された悪意のある画像や動画をフェイクと見抜くのはとても難しいですが、私たちはこれからの社会を生きていくうえで、根拠のない思い込みや偽情報やフェイクニュースなどに十分注意していく必要がありますね。

根拠のない思い込みについては、次のようなものも含まれているかも？と、私は思います。

●どうせ私なんか…　●自分には無理だ…　●きっとまた失敗する…

もちろん、客観的かつ冷静に自己分析をして「今の自分の力では無理だ…」と判断する場合もあるでしょう。しかし、事実に基づかない不安や心配が頭の中をぐるぐる巡って物事をマイナスに捉えたり自己を過小評価したりする、つまり、根拠のない思い込みによって悪い方向に振り回されてしまうケースも結構多いのではないかと推測します。皆さんには、もしネガティブな考えが浮かんだ時には、まずは「これは根拠があるのかな？」と自分に問いかけてみてほしいなと思います。

ところで、こういうのは皆さんどう思いますか？

●今日は、母の命日だ。天国から僕のことを見守ってくれているに違いない。
　今日の入学試験はきっと大丈夫…母さん、絶対に僕、合格するからね！

これも科学的な根拠があるわけではないですよね。でも、こう思うことに対して「嫌な感じだ」「おかしなこと考えてる」って思った人は少ないのではないでしょうか。「根拠のない思い込みには十分注意を」と私は先ほど言いましたが、根拠のない思い込みのすべてが絶対悪ではないとも思うのです。**科学的あるいは客観的な根拠がなくても、自分や周りの人が幸せ、前向き、意欲的、ハッピーな気持ちになれるなら人生にとって決してマイナスではない、だからポジティブシンキングで物事に取り組んでみてもいい、**というのが私の意見です。

ということで…話のはじめに戻ってもう一度言います。科学的根拠があるわけではありませんが…「丙午」の今年は鷲高生を象徴する年です。皆さんで挑戦・実行・飛躍の年にしましょう。勉強、部活、行事、進路…みんなの願いを叶えましょう。**「丙午」の今年はきっと良い年になると信じて、気持ちを前向きに、そしてプラス思考でこの３学期を頑張っていきましょう。**

以上で、校長式辞を終了します。